

長野県における飼料用米および WCS の現状と課題

～特に雑草対策を中心に～

長野県農政部農業技術課 宮原 薫

1 生産の現状

(1) 飼料用米

- ・県水田協、JA 全農長野等関係機関と連携し、水田等有効活用促進交付金を活用し、地区別に作付け推進。
- ・主食用米価の下落(H26)により、生産面積急増(図-1)。移植栽培による取組が多い。H27 生産面積: 飼料用米 370ha。
- ・JA 系統への出荷、県内の大型養鶏農家(自家配合施設あり)(写真-1, 2)。
- ・主な品種:「コシヒカリ」、「ふくおこし」(多収性専用品種; 161ha)(表-1)。

(2) WCS

- ・従来からの産地の方が多。
- ・稲作、畜産が盛んな地域(佐久・上伊那・下伊那・長野北部)を中心に、JA、市町村、普及センター(作物・

畜産担当)が連携し、栽培指導会、管理(特に落水時期)指導会等が行われている。

・飼料価格の高騰、自給飼料の推進により、近年面積増加(図-1)。カルパー直播、裸粳直播も一部取組みあり。H27 生産面積:WCS 238ha。

・主な品種:「コシヒカリ」、「たちすずか」、「クサホナミ」、「たちあおば」等。

2 課題

(1) 雑草

ア 飼料用米

- ・「ふくおこし」も 4-HPPD 阻害型除草剤による薬害(白化)が発生するので、導入時には留意している。
- ・管理不十分な飼料米ほ場の雑草種子混入(草種、程度の目合わせ)。

表-1 「ふくおこし」の品種特性

品種名	両親名	育成地 奨励及び 認定品種 編入年次	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	玄米収量 (kg/10a)	容積重 (g/ℓ)	玄米 千粒重 (g)	耐倒 伏性	耐冷 性	いもち病 抵抗性
ふくおこし	ほそおもて ／ ふくひびき	長野農事試 認定平23	8. 4	9. 11	93	20. 7	486	898	827	23. 4	強	やや弱	葉:極強 穂:強

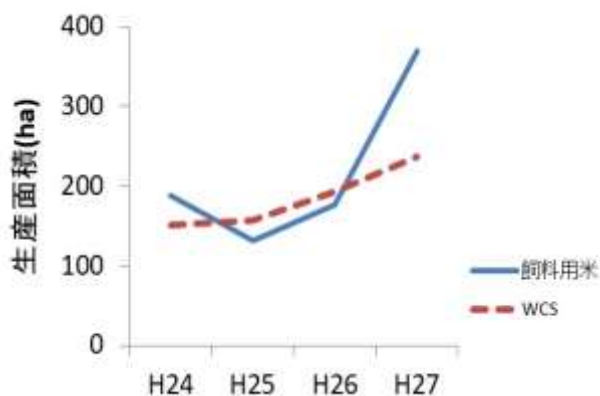


図-1 長野県内における飼料用米、WCS 生産面積の推移



写真-1 養鶏飼料出荷用「ふくおこし」の収穫状況

イ WCS

- ・管理不十分な WCS ほ場(雑草多発)⇒周辺の耕種農家への影響。
- ・WCS 収穫機による雑草種子拡散⇒WCS が悪者に・・・。
- ・収穫時に雑草が高水分でなければ、多少の雑草が混入しても発酵品質上、影響は少なく、返品の話はほとんどないが、価格切り下げのネタになる。
- ・生産資材費を省きたい⇒肥料、農薬がターゲットになりやすい。
- ・未熟堆肥等還元⇒帰化雑草発生の懸念。
- ・裸粳直播の出芽不安定、鳥害対策(カモ)。

(2) その他の課題

ア 飼料用米

- ・コンタミ防止の観点から、「コシヒカリ」以外の品種導入に慎重な JA が多い。
- ・耕種農家のモチベーションは、交付金のみ。高品質を目指す動機付けがなく、交付金額の切り下げを懸念し、ハード(乾燥施設等)整備に踏み切れない。
- ・JA 系統の手数料収入が少ない。
- ・飼料米: 県内に配合飼料工場がない。全農集荷(生産物収入ほぼゼロ)か、地域内流通(養鶏農家等)の

仕組み作りが必要。

イ WCS

- ・生産側と需要側のマッチング。
- ・畜産農家側からは、専用品種の要望が高いが、導入に慎重な JA が多い。
- ・降雨等により適期収穫が困難な年も。

3 対策

(1) 雑草

- ・「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」において、「WCS で使用可能な除草剤」が増加。以前より「使える」除草剤が増えた。
- ・病虫害防除所と連携して、一般名を商品名に翻訳し、「県農作物病虫害・雑草防除基準」に、「飼料用イネ(WCS)」の項を設け、商品名で掲載(写真-3)。
- ・栽培指針の作成(除草剤の適宜見直し)⇒研修会の開催。

(2) その他

- ・現地栽培実証ほの設置
⇒低コスト、多収栽培の実証、展示。
⇒経営収支を示すことで、生産意欲の向上。



写真-2 大型養鶏法人における飼料米給与試験(平成22年)



写真-3 飼料用イネの使用可能農薬も掲載された県防除基準